

上賀茂神社



(<http://www.kamigamojinja.jp/> による)

[上賀茂神社の公式ホームページ](#)によると、上賀茂神社について、次のように説明されている。すなわち、

「 神世の昔、[賀茂別雷大神 \(かもわけいかづちのおおかみ\)](#) が、本殿の背後北北西に位置する秀峰・神山に御降臨になり、第40代天武天皇の御代・白鳳6年（678）には山背國により賀茂神宮が造営され、現在まで殆ど変容することのない御社殿の基が築かれました。

第50代桓武天皇による平安京遷都以降は、皇城鎮護の神・山城国一宮として歴代の天皇が行幸・奉幣祈願されました。古より、皇族はもとより、貴族、武家の社参相い続き、現在の多くの人々に崇敬されています。』・・・と。

本殿の背後北北西に位置する秀峰・神山は、聖地となっており、入山することはできないが、上賀茂神社の境内からも見え、如何にも神々しい山である。



では、上賀茂神社にお参りしよう。

上賀茂神社は、賀茂川の上流・御薊橋のすぐ近くにあり、東に太田神社、西に神光院がある。



一の鳥居

(<https://www.travel.co.jp/guide/article/24317/> による)

この一の鳥居をくぐって、参道を歩いていくと、春であれば見事なしだれ桜を見ることができる。



上賀茂神社のしだれ桜

(<http://www.kuniomi.gr.jp/togen/iwai/kyousaku.html> による)

上賀茂神社の二ノ鳥居をくぐってすぐ正面に、重要文化財にも指定されている「細殿（ほそどの）」がある。細殿は、天皇や上皇が社殿参拝の前に装束などを整えるための御殿である。



この細殿の前にあるのが、円錐型に整えられた一对の盛り砂。



「立砂（たてずな）」と呼ばれるこの盛り砂は、賀茂別雷神が降臨したと伝えられる本殿の背後に位置する「神山（こうやま）」を模したもので、上賀茂神社の象徴的なものである。

立砂の横には、参拝者向けに用意された「清めのお砂」が置かれていて一包500円で載いて帰ることができる。

風水師やスピリチュアル関係者の間では、この上賀茂神社の「清めのお砂」は知られており、住居の厄除けや浄化に絶大な効果があるという噂がある。





(https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g298564-d1312180-Reviews-Kamigamo_Shrine-Kyoto_Kyoto_Prefecture_Kinki.html による)

この楼門をくぐり抜けると、中門があり、その奥に本殿がある。本殿は神聖な場所であるので、通常本殿までは行けないが、中門から本殿を礼拝することができる。

中門は、檜皮葺の屋根、切妻造の建物になっており、江戸前期に建造された国指定の重要文化財になっている。この中門をまじかに見ることは、京都以外の地ではなかなか経験できないことで、皆さんも、京都においでの際は、是非、上賀茂神社の中門まで来て、参拝していただきたい。



上賀茂神社の境内図

細殿を過ぎるとすぐのところに手水舎があるので、口をすすぎ、手を清めて、楼門をくぐり、中門から本殿を礼拝するのである。



中門から本殿を礼拝



中門が拝殿になっている

その向こうに本殿が見える！



中門から見た本殿

上賀茂神社に参拝したら、有名な「やき餅」がお勧めです。神社大鳥居の正面にあるのが『葵家やきもち総本舗』です。

「やき餅」を食べて一服したら、上賀茂神社の境内あるいは上賀茂界隈で、是非立ち寄って欲しい場所があるので、それらをここに紹介しておきたい。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/kanrenbasyo.pdf>

註：このページの中の「境内の散歩」をクリックしていただくと、「加茂みそぎ」の説明がある。「加茂のみそぎ」は舞殿で行われる儀式・夏越（なごし）の大祓（おおはらえ）のことである。舞殿は上に示した境内図の真ん中辺にある。「ならの小川」にまたがって建てられているので橋殿ともいう。